

2023 年度 第 51 回 いしかわインテリアデザイン大賞 「大賞」

物 件 名	我戸幹男研究所			
	所 在 地	石川県加賀市		
設 計 者	soon design / 株式会社 SWAY DESIGN			
	TEL		URL	



次世代に引き継ぐ、技と工房。

我戸幹男研究所は山中漆器産業を

次世代の若い人たちが継続して引き継ぐことを望み

我戸幹男商店が設立した工房です。

構想段階から、「モノ」づくりのプロフェッショナルに多くの意見を取得し建設中の問題点も話し合い、妥協せずに多くの提案を重ね進めてきました。当施設は各工程毎に広くスペースを使い、仕切りを全てガラスで製作し、閉塞的な工房内を開放的に見せ、尚且つ、各工程がエントランスから全て見学できるよう設計しました。施設内の備品にも細かに気を使い当施設で働く未来の山中漆器業界を支える職人を目指す方が「モノ」づくりを通し、より多くの「コト」づくりに向き合える環境を願い形になったものが我戸幹男研究所です。

エントランス / ENTRANCE

大きな窓からは施設裏の雑木林が見られ、季節の移ろいが感じられます。また、無機質な施設内に有機的な要素を演出するため、エントランスには、栃ノ木を再利用した什器に九谷焼の鉢に植えられた多肉植物をディスプレイ。

木地工房 / WOODWORKING WORKSHOP

木地工房には最新型の轆轤を2台設置。細かな速度調整や真空圧着での木地固定など、作業者が快適に作業できる環境を目指し、品質の向上やロス率の低減を可能にします。

前室 / ANTERIOR CHAMBER

木地工房から運ばれた、製品を塗装工房で作業する前に一時的に保管する準備室。木地工房からの木屑や、埃を極力、塗装工房内に持ち込まず、美しい塗装ができるように用意されたスペース。

休憩室 / EMPLOYEE LOUNGE

著名なインテリアデザイナーが製作した作品を配備した休憩室。優秀なデザインに囲まれ、感性を磨き、制作に活かして欲しいという我戸幹男商店の配慮です。

塗装工房 / PAINTING WORKSHOP

前室から運ばれた、製品を塗装するスペース。塗装ブースに備えられた大きな排気設備は、ウレタン塗装時に作業者の身体的負担を軽減するための配慮。ゆとりのある広いスペースで作業することで、塗装時に発生する不具合の抑制を目指します

2023 年度 第 51 回 いしかわインテリアデザイン大賞 「石川県知事賞」

物件名	マルガーラボ 野々市		
	所在地	石川県野々市市	
設計者	デザイナー名	株式会社 トイットデザイン 戸井 建一郎	
	TEL		URL



■設計趣旨

2022 年 10 月に移転オープンした、人気ジェラートショップ「マルガージェラート野々市」の新店舗『マルガーラボ野々市 / noto nature art lab.』。

国内外のジェラートコンテストにおいて世界チャンピオンを始め数々の受賞歴を持つジェラート職人、柴野大造氏と柴野幸介氏。本設計では、彼らが唱える " ジェラートづくりは科学と感性が融合した味わいのアート " という思想を基に、「味覚を研究するラボラトリー」と「味覚を体験するミュージアム」、それぞれの要素が複合したイメージの空間が求められた。

新店舗は、様々な業態の店舗が点在するアクセスの良い通りに面しており、ショップ機能に加えこれまで白山市で稼働していた製造工場と統合し、販売コーナーやイートインスペースを拡充した。店内は、商品を引き立たせるため敢えて装飾のない無機質でシンプルな空間とし、エントランスからショーケースに辿り着くまでの約 15M の導線に沿ってシームレスに伸びる窓を設け、[工場・チーズ室・ジェラートルーム] の各セクションを配列することで、原材料となる能登の生乳が殺菌加工され、ジェラートやチーズ、イタリア伝統菓子のクリームになるまでの製造過程を視覚体験できる、これまでにない新しい形態のジェラートショップを計画した。

外観はミルクをイメージした乳白色に映るマッシブな直方体のボリュームから L 字型にくり抜かれたテラス席、エントランスゾーンのコーナー部分に、彩り豊かなジェラートケースをモチーフとした色鮮やかなカラーガラスのパレットを設け、建築とアートが融合した周辺環境に開かれた前衛的なショップ空間をデザインした。

■DATA

建設地 / 石川県野々市市 主要用途 / 食品工場 + 物販店舗 構造・規模 / 鉄骨造・2 階建
敷地面積 / 859.91 m² 建築面積 / 322.25 m² 延床面積 / 452.72 m²

2023 年度 第 51 回 いしかわインテリアデザイン大賞 「金沢市長賞」

物件名	Mannaka SALON（マンナカ サロン）			
	所在地	石川県金沢市		
設計者	ヨシダ宣伝株式会社 吉田 篤史			
	TEL		URL	



金沢市専光寺に本社を構え加工食品の開発・製造・販売を北陸で展開している 石川中央食品株式会社の社員休憩スペースのリニューアル計画。

「社員同士のコミュニティと様々なアクティビティを誘発する空間の創出」をテーマに本計画が始動した。

“社員の為に日本一の休憩室を設えたい”という石川中央食品北野社長の想いと、「安心」と「安全」が極めて重要になる「食」を扱う企業に対し「日本一ひとと環境に優しい空間」をコンセプトに掲げてデザインに臨んだ。

まず元々倉庫だった場所を新たに休憩スペースとして改修する為なるべく閉塞感を感じさせない開放感のある空間をイメージし、多様に点在するデザイン要素をシームレスに繋げ空間全体の一体化と各ゾーンの明確化を目指した。

そしてスペース全体を大きく2つのゾーンに分類し、社員と外部の方々が利用する商談スペースは白と明るい木目が基調の活力溢れる意匠とし、対して社員休憩スペースでは黒と濃い木目がプライベート感を醸成する落ち着いた雰囲気づくりを試している。

各所の仕上げ材にはなるべく天然素材やリサイクル材料、アップサイクル素材を使用しており、既存のモルタル床も特殊な水性塗装仕上げを選択し床貼り材を使用しない等、環境負荷軽減にも配慮した。

またロビー側入口の壁面を空間で使用した様々な素材を組み合わせた意匠にすることで本プロジェクトの理念を印象的に発信する媒体として設けている。

他にも随所にグリーンを配置させ視覚的・体感的に安心感や居心地の良さを与える仕掛けを施しており、中央に配置した新商品試食コーナーでは約7mの大型調理カウンターと壁一面のウォールグリーンが活気溢れる時間を演出している。

石川中央食品の「中央」と「みんなが集まる中心」という意味を込めてネーミングされ新たに誕生した「mannaka SALON」。

環境や人々のコミュニケーションといった多様な現代の問題に対して企業が今後どのように取り組み発信するべきか、そしてデザインを通じてこれらの課題をどの様に解決するか真摯に向かい合ったプロジェクトとなった。